# とうほく元気レポート

今回のレポート先
**「橋本五郎文庫」**
（みたね鯉川地区交流センター内）
山本郡三種町鯉川字片平34
TEL 0185-87-3177

## 学校が新たなコミュニティーの場へ「橋本五郎文庫」

地方では、今、少子高齢化や過疎化の進展などから、地域コミュニティーが薄れつつあり、各自治体では、地域活性化に向けた趣向を凝らした取り組みが行われています。

今回取材に訪れた秋田県「三種町」は、稲作を中心に「じゅんさい」や「八竜メロン」などの栽培が盛んな町です。この町に2011年4月29日「橋本五郎文庫」がオープンしました。過疎化により惜しまれつつ閉校となった小学校を、町の出身者である橋本五郎氏（読売新聞特別編集委員）が、2万冊の書籍を寄贈し、地区のコミュニティー施設として生まれ変わらせたのです。文庫開設から運営に携わる地元の方々の姿を紹介します。

## 故郷への想いがつないだ文庫の設立

「橋本五郎文庫」は、125年の歴史ある鯉川小学校の閉校に伴い、地域コミュニティーの再生に向けた地元の方々の想いと、橋本さんの故郷への想いが重なり、閉校から2年後にオープンしました。現在は、みたね鯉川地区交流センター内の「橋本五郎文庫運営委員会」が書籍の管理など文庫の運営を行っています。

橋本さんと幼馴染で現在、運営委員会の会長を務める近藤實さんは「鯉川小学校の閉校を知った橋本さんが、生まれ育った町に人がいなくなり、人と人とのつながりがなくなると危惧し、多くの人が集う場所づくりとして自分の蔵書を寄贈しました」と、文庫設立の経緯を話してくださいました。

▲閉校となった鯉川小学校の校舎を活用した「みたね鯉川地区交流センター」

▲元総理大臣の中曽根康弘氏が直筆した看板

◀1階の第1文庫では、幅広いジャンルの本が数多く蔵書されています

▲オープニングセレモニーは、500人もの来館者で賑わいました

▲運営委員会 会長 近藤さん

## 地元の方々が力を合わせた手づくりの文庫

文庫の設立準備には、鯉川小学校の卒業生や近隣地区から約40人のボランティアが集まりました。しかし、本の分類や管理ラベルの作成、パソコンへのデータ入力など、誰しも経験のない仕事ばかりです。県立図書館に見学へ行ったり、専門家にアドバイスを受けながら、オープンまで4カ月という短期間で準備作業を行いました。

運営委員会の事務局を務める宮田勝良さんからは「地元の方々が力を合わせて設立した文庫ですが、開設準備から本の分類作業はミスも多く、今でもその訂正に追われています」と、手づくりで運営している文庫開設時からの苦労話を聞かせていただきました。

▶2階にある子ども文庫

▲運営委員会事務局　宮田さん

▲喫茶コーナー
「コイカワ早乙女の水Coffee」

## 特色ある図書と展示で魅力を発信

文庫の開館は水曜日と土曜日、日曜日の週3回で、時間は午前10時から午後4時までとなっています。1階がメインの「第1文庫」です。ここには喫茶コーナーが併設されており、地元の湧き水で入れる美味しいコーヒーを飲みながらゆったりと読書が楽しめます。2階の第2文庫から第4文庫には、著名人からの贈書を中心に、子ども向けの絵本や歴史書など特色ある図書もそろえられています。また、企画展示室には芸術家の版画や絵画、写真などが展示されています。

「ここの文庫は近隣の図書館に比べ蔵書数が多く、幅広いジャンルの本もあり、わざわざ隣町から本を借りに来る人もいます」と近藤さんと宮田さんは笑顔で話します。

## みんなのアイデアで来館者の拡大を

文庫の利用者は、年間４０００人から５０００人で、蔵書数は約３７０００冊となっています。運営委員会ではメンバーからのアイデアをもとに、地元の方々に楽しんでいただけるイベントをはじめ、県内外からも多くの方々に来館いただくためのトークショーや企画展などを行っています。その一つで２０１３から２０１６年に計３回開催された「母への手紙、父への手紙」作文コンクールでは、親子の愛情や家族の絆などをテーマに、国内外から毎回１０００点以上の作品が寄せられました。入賞作品は作品集として刊行されており、全国の図書館をはじめ、第３回の上位入賞４作品はホームページでもご覧いただくことができます。

▶来館者の興味や関心を引くさまざまな講演会を開催

◀作文コンクールの作品集

## 地域の憩いの場「みたね鯉川地区交流センター」

文庫を管理している「みたね鯉川地区交流センター」は、その他に体育館やグラウンドなども管理しており、地元の方々の交流の場として、通年利用されています。夏には鯉川地区の７つの集落による合同盆踊りが、冬には体育館を利用した小学生のミニバスケットボールやお年寄りに人気の室内グラウンドゴルフの競技が行われたりと、子どもからお年寄りまで、地元の方々の笑顔の輪がたえず生まれている地域の憩いの場所です。取材当日も、体育館には地域のお年寄りの方々が集まり、室内グラウンドゴルフを元気いっぱい楽しんでいました。

◀寒さに負けず、室内グラウンドゴルフを楽しむ地域の方々

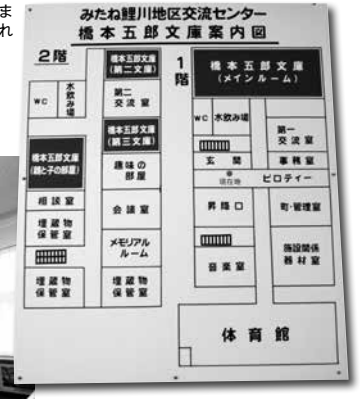
▶鯉川地域の集落が集まって開催した盆踊り大会

# 閉校となった小学校の利活用を地域活性化の起爆剤に

少子高齢化の進展により、閉校になる数は年々増えています。また、地域コミュニティーをどう存続していくのか、その取り組みに全国の自治体は頭を悩ませています。「人が自由に集まることができる場所がなければ、住民はどこにも出掛けず、地域はさびれていくだけです。それだけに、憩いや交流の場として、地域みんなでつくり上げたこの施設の存在意義は、非常に大きいものがあります」と、近藤さんは話します。

閉校となった小学校を利活用したこの取り組みは、地域活性化のモデルケースとして注目を集め、全国各地から視察団体が訪れています。

▲2階には鯉川小学校125年の歴史が詰まったメモリアルルーム




▶文庫の案内図には閉校になるまで使われていた教室名も記されている

## 橋本五郎文庫

http://www.h-goro-bunko.com/

### 文庫の利用について

**開館時間**

**毎週 水・土・日曜日**

**午前10時～午後4時まで**

橋本五郎文庫で押印できるスタンプ

| | |
|---|---|
| 貸し出し可能冊数 | 1人3冊まで |
| 貸し出し期間 | 2週間以内<br>※延長する場合は連絡をお願いします |
| 本をで借りることができる方 | 地域は限定致しません<br>※ラベルの無いもの以外は全て貸し出しします |

喫茶コーナー

**橋本五郎文庫**

みたね鯉川地区交流センター（旧鯉川小学校内）

秋田県山本郡三種町鯉川字片平34

☎0185-87-3177 FAX 0185-87-3177